

#看護師ふやせ #保健師ふやせ



▲いのちを守るキャンペーン宣伝  
(3月22日) JR京橋駅

「看護師を増やしましょう」と対話中▶

病院と保健所を増やしていのちを守ろう—「いのち署名」にご協力を

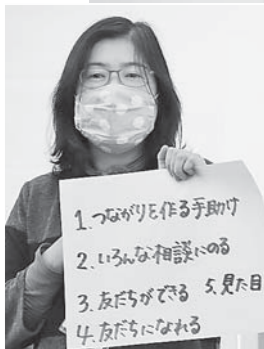
コロナ感染拡大で、医療現場の環境は厳しくなるばかりです。

自治労連は「住民のいのちと健康を守る自治体の役割をはたすために、体制拡充が必要だ」と、「いのち署名」に取り組んでいます。職場のみなさん、ぜひとも「いのち署名」にご協力ください。



「おおさか共済学校」

「組合員のくらし・健康を守る共済活動を広げよう」  
有田委員長が開会あいさつ



ワーキングの発表  
「運動の力はこれ！」

3月21日に「おおさか共済学校」をシテイプラザ大阪で開催しました。例年、共済学校は全国集会ですが、今年はコロナ禍のため都道府県ごとの開催となりました。

特別報告では、豊橋市職労の松崎純さんと松下優子さんの職場参加型の実践報告をしていただきました。松崎さんは「すべての組合活動は、組織強化につながらなければ意味がない」と話されました。また、ファイナンシャルプランナーの松山陽子さんから「共済を活用しコロナに負けない人生設計を」と題して講演をしていただきました。

参加者からは「自分のライフプランを真剣に考えてほしい」「組合の可視化が大切と改めて感じた」など感想が寄せられました。

コロナ禍だからこそ共済活動が重要

はたらく仲間の助けあい  
共済は労働組合の原点

おおさか共済学校

「生きるために、給付金の支給を！」

行いました。ほとんどの商店が「売上げが激減している」「給付金や支援制度も十分ではない」と答えています。

「まんえん防止はもうええ。生きるために給付金支給を！」「ワケチン接種で安心できる生活を早く」「カラオケ店とか、名指しは

やめてほしい」との声。また、「行政がもっとスピーディーに動いてほしい」「補助金の給付が遅いし、対応も悪い」など、行政に対する

不満の声が多く聞かれました。参加したスタッフからは、「忙しい時間帯だったが、話をよく聞いてくれた」「コロナ禍で大変な思いをされているのがひしひしと感じられた」や、「今回限りにせず、継続的にやるのが大切だ」との感想が寄せられました。

くらし 労働 健康 なんでも相談会&フードバンク



フードバンクの準備中。食材を仕分けて袋詰めしています

たくさんのスタッフが協力してくれました  
(相談会終了後のまとめの会)



当日は街角でも対話に

大阪自治労連が加盟する大阪公務共闘(大阪国公・大教組・福祉保育労・全農林大阪)が主催し、市民団体と一緒に実行委員会をつくって「4・4なんでも相談会&フードバンクinグリーン会館」を4月4日に開催しました。

コロナ感染対策  
年金問題、高齢者雇用…  
幅広い分野の相談が  
なんでも相談会には「会社の業績不振で退職させられ、まもなく



「お店の経営はどうですか」と訪問

商店街で聞き取りアンケート  
悲痛な声や  
切実な要望が続々と

この日は、天神橋筋商店街のお店を回り、聞き取りアンケートも

「まもなく雇用保険が切れる  
今後の生活が不安でいっぱい」  
「二日も早くコロナ前の  
社会生活を取り戻したい」

切実な生活相談

雇用保険が切れる。今後の生活が不安でいっぱい」という相談をはじめ、「コロナ感染対策」や「厚生年金の問題」「高齢者の雇用問題」など幅広い相談が寄せられました。

フードバンク(食材提供)に訪れた人も、その場で生活相談になり、スタッフが聞き取りをしました。また、「子ども食堂やフードバンクをやりたい」と相談に来た方も。

今月のキーワード

「いのち署名」

全労連・中央社協・医団連(保団連・全日本民医連・医療福祉協連・新医協・医労連)などが呼びかけ、医療と保健所の体制強化を求めて取り組んでいる全国署名です。新型コロナウイルスを受け入れた病院は大きなリスクを抱えています。政府は医療費削減のために長年にわたり病院も医師・看護師も減らしてきました。また、保健所はおよそ25年間のうちに半分に減っています。今こそ、国民のいのちを守る政治への転換が必要です。

今月のキーワード

フードバンク

安全に食べられるのに包装の破損や過剰な在庫、印字ミスなどで流通に出せない食品を企業からもらい、必要としている施設や団体、生活に困っている人に無償で提供する活動です。その歴史は1960年代、飢餓が広がるアメリカのアリゾナ州でボランティア活動をしていたジョン・ヴァン・ヘンゲルが食べられる食品が廃棄されているスーパーと交渉して寄付してもらい、地元の教会に備蓄する倉庫を借りたのが始まりです。